専攻医の主張

蛙の子は蛙

広島市立広島市民病院　泌尿器科　津川　卓士

私は、広島県福山市で生まれ、岡山県で育った。特に目標もなかったが、父も医者であったこともあり自分も医者を目指し、1年浪人した上で医学科に入学した。明確な目的もなく医学科に入学したが、学生の頃に内視鏡手術とロボット手術をみて、自分もやってみたいと強く感じ、将来は外科系の科を選ぼうと漫然と考えていた。初期研修医の頃は各科をローテーションし、泌尿器科と耳鼻科と外科で悩んでいた。泌尿器科医の父に相談した際に、父も学生の頃全く同じ選択肢で悩んでいたと聞き、遺伝的なものを感じながら、特にロボット手術の普及が進んでいた泌尿器科を選んだ。後期研修先として広島市民病院を選んだのは、泌尿器疾患の症例数が多いことと、学生の時に見学に来た際、今の自分と同年代の先生方がロボット手術や腹腔鏡下腎・尿管全摘除術などを執刀しているのを見て憧れたからである。

最近は少しずつではあるが、執刀医としてロボット手術などもしている。いざ自分でやってみると、手術はその大小に関わらず想像していたよりも何十倍も楽しいものである。手術の時は、アドレナリンが溢れ出て無我夢中で執刀している。上手にできたときはもちろん楽しいのだが、うまくいかない時も多々ある。そんな時も、解剖の教科書を見直したり上級医の手術動画と自分の手術動画を比較しながら、なぜうまくいかなかったのかを考えて改善点を見つけ、それを次回の手術の際にやってみる。この一連の流れも楽しくて楽しくて仕方がない。

実家に帰省した際に父といろいろ話すが、最終的にはいつも手術の話題になってしまう。前回帰省した際には、自分が執刀したロボット支援下前立腺全摘除術の動画と、父が執刀した腹腔鏡下前立腺全摘除術の動画を2人で見ながら、あーだこーだと、お互いの手術に対しての感想を言い合い、気づけば日付が変わってしまっていた。学生の頃までは父に似ていると周囲から言われる事はほとんどなかったが、28歳になり急に『蛙の子は蛙』という言葉が染みる。

しかし、似すぎるというのもいかがなものか。父と同じ科を選択したことも有り、周囲の先生からよく父の昔話を聞く。特に酔っ払ったときのエピソードは強烈なものが多い。酩酊（めいてい）し10メートル程の高さの崖から落下してICU送りになったり、川に落ちた自転車を取りに行くために自分も川に飛び込んだり、となかなかの破天荒っぷりである。常識的な酔い方をする手術の好きな泌尿器科医でありたい、と強く思う今日この頃である。

日本医師会ORCA管理機構
「日医標準レセプトソフト導入相談窓口」
TEL 0120-544-170（フリーダイヤル）
受付時間　月～金　10:00～12:00・13:00～17:00（土・日・祝日を除く）
FAX：03-5981-9682　E-mail：assist@orca.med.or.jp
※既に導入済みの方のお問い合わせ（インストール、操作、バグ、改善要望など）は
下記ホームページ内のサポートセンタへお問い合わせ願います。
ORCAプロジェクト公式ホームページ
http://www.orca.med.or.jp/